

殿上名謁

瀧口問籍

近衛夜行

仰宮主

職事仰
本宮

大殿祭

或未事始以
前奉仕之

供内侍所御供

三箇
日

此次第之内、三箇所有不審、仍一々其下注、不審尤荒涼歟、不可外見、

〔御湯殿の上の日記〕弘治三年十月廿七日、御せんそ、○正親町廿七日の御ふんにて□□つれども、くわうおゆどの、うへのくろやりどよりきちやう所へならします、御ふくきちやう所にてめさしかゆる、御ひきなうし、つねの御所より御まやうじのうちへならします、すけどの御ともにてけんじさうせらるゝ、つねの御所にて御物口く、御ゑもんながすけあつそん、御まへしやうぞくやましな前中納言ひの御まへ二とならします、くわしき計はまだいにあり、つねの御所にて六こんたてまゐる、御はいせんすけどの、御てなががはしいよどの御さが月まゐる、又三ごん御さか月まゐる、ないくゝの、ゆ御どおりあり、くわんまゆ寺一位せんそのでんそとて御さか月たぶ、まやうじの御せん御はいせん頭辨よりふさあそん、御てながすけふさ、つねもと、ためなり、せんそのぶぎやうすけふさ、

〔忠利宿禰記〕承應三年十一月廿八日、花町宮御諱良仁、後西院春秋十八有踐祚之事、先劔璽自舊主御所奉渡御、

踐祚次第闕白作進云云